

4. 実証研究の具体的な実施内容及び実施方法等

31 年度実施内容及び実施方法

【実施内容】

<学校運営協議会の設置>

平成 31 年 3 月に学校運営協議会を設置。30 年度に研究協議会でまとめた「塔南高校学校運営協議会の方向性」で示す、学校運営協議会の在り方を具体化する。

○理事会の開催

学校運営協議会理事全員が集まる理事会を開催。学校運営や地域連携の取組等について学校から報告し、全体での意見交換を行う。年 3 回程度開催予定。

・第 1 回理事会（4 月 24 日）を実施

塔南高校の学校運営方針、学校運営協議会の年間計画を報告した。

教員・生徒と理事のグループ協議を実施した。「地域・社会と学校が協働して、高校生の力を引き出す」ためのアイデアを検討した。

・第 2 回理事会（11 月 6 日）を実施

各部会からの報告や生徒の活動報告、視察報告を行い、「キャリアフィールドワーク」の実施に向けて意見を交換した。

○地域協働部会の設置

学校と地域・社会（地域団体、企業、大学、行政、NPO など）の活動をつなぐため、地域協働部会を設置。生徒も参画し、高校生が関わる地域活動の検討を行う。

・第 1 回地域協働部会（6 月 11 日）を実施

第 1 回理事会で協議した高校生が地域と連携して取り組む活動のうち、実現可能な活動を検討した。

○学校評価部会の設置

学校が自己評価と外部評価の結果・分析内容を示し、教育活動の P D C A サイクルが機能しているか、「学校評価」を評価する部会を設置する。

・第 1 回学校評価部会（9 月 6 日）を実施。

生徒・保護者による学校評価アンケートの結果やいじめについての生徒アンケートの結果を報告し、意見交換を行った。

<地域連携事業の実施（生徒の主体性の伸長）>

地域連携事業への参加者を募り、実施した。

31 年度も、生徒会等を中心に募集し、選考、先方との連絡等も生徒に主体性を持たせて実施した。

・放課後まなび教室学習サポーター（30 年度：3 小学校へ 14 人、 31 年度：3 小学校へ 14 人）

・京都市南区一斉清掃（30 年度：唐橋学区 年間 2 回、祥栄学区 年間 1 回 31 年度：唐橋学区 年間 4 回、祥栄学区 年間 1 回）

・祥栄小学校夏休みふれあいキャンプ及び吉祥院小学校防災チャレンジキャンプ

※31 年度から、吉祥院小学校防災チャレンジキャンプには、企画段階から参加

・祥栄小学校 3 年生の地域探究（総合的な学習の時間）の受け入れ

・吉祥院図書館との連携イベント（夏休み科学実験教室・絵本の読み聞かせ・書道パフォーマンス・英語で遊ぼうクリスマスパーティ）

<課題探究活動の実施>

30 年度から 2 年生が総合的な学習の時間で課題探究活動に取り組んでおり、そのなかで社会の課題と関連付けたテーマを設定し探究学習を実施した。

課題設定等の指導法も手探りではあるが、1 学期は自分の興味・関心から探究テーマを決め、2 学期にはそのテーマについて調査・研究を行い発表した。また、12 月に「キャリアフィールドワーク（企業や行政等を訪問し、働く人と対話）」に取り組み、学び続けることや挑戦すること、人とのつながりの大切さに気付く機会とした。3 学期は、キャリアフィールドワークで深めた地域・社会への捉えと課題探究をまとめ、発表・論文に仕上げている。

※キャリアフィールドワーク：30 年度 2 年生 127 名が 5 大学・10 事業所に訪問。

31 年度 2 年生 95 名が 3 大学・12 事業所に訪問。

※キャリアフィールドワークの活動先（30 年度：3 事業所、31 年度：3 事業所）を、学校運営協議会理事（研究協議会委員）から紹介いただけ、サポートボードのモデルとなった。

<他校事例等の視察>

「高校魅力化コーディネータ」を配置している高校において、地域連携におけるコーディネ

ネータの活用事例を学ぶ（島根県立三刀屋高校）。また、全国地域教育魅力化フェスタに参加し、サポートボードが高校と学校運営協議会、地域をつなぐ「地域コーディネータ」としての役割を担うための参考とした（島根大学）。（令和元年11月1日～2日）

<教育活動の公開>

30年度から、塔南高校で実施する特色ある教育活動を公開。学校運営協議会理事にも視察いただき、高校の教育活動に対する理解を深めていただいた。

【具体的な研究方法】

<サポートボード機能を発揮できる学校運営協議会の体制構築>

30年度に試行的に実施したサポートボードの取組をさらに充実させ、31年度は、「キャリアフィールドワーク」の取組を中心に、実務の割振りや連携先の新規開拓も含めた調整等、組織として機能できるようにしくみ作りを行う。

<生徒の主体性を伸長する取組やしきみづくり>

生徒が主体的に考え行動できるよう、これまでの地域連携活動に加え、学校運営協議会の理事会・地域協働部会にオブザーバーとして参画させ、自らの学習を社会と結びつける活動について積極的に理事と意見交換を行わせた。また、活動が継続できるしくみを検討する。

<内部・外部からの視点による検証>

30年度は、学校運営協議会の理事に加え、京都市教育委員会や中小企業振興や文化振興を管轄する産業観光局の市職員等を含め、全体を研究協議会として設置した。

平成31年3月の学校運営協議会設置後も、継続して京都市教育委員会の支援・指導助言を行い、産業観光局の市職員等にもオブザーバーとして意見をいただくなど、学校運営協議会の在り方を内部・外部からの視点で検証する。

<地域連携事業の研究>

これまでの塔南高校の地域でのボランティア活動と、生徒の課題探究活動で実施する地域・社会連携事業を地域と学校の1対1の連携事業として展開するのではなく、地域を包括する事業へと発展できないか検討する。

また、地域活性化に向かって活動している地域や大学、企業等多様な団体を視察し、塔南高校における地域連携の展開を研究する。